

平成28年度 学校評価計画表(その1)

教育目標	自立した社会人の育成を目指して、「知・徳・体」の調和がとれた豊かな人間性を育み、心身を鍛えることによって一人一人が高い志をもって目標達成に向けていきいきと行動できる生徒を育てる。		総合評価
運営方針	・「夢を現実」に合い言葉として、生徒の自己実現を教職員が一丸となって支援する。 ・限られた時間を有効に使い、文武両道の実践ができる生徒を育てる。		
平成27年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標	
生徒の遅刻は少ないものの、2学期以降の欠席、早退は増加傾向であった。次年度には、欠席を減らすことを目指す。生徒の学習時間等の実態を教員が共有し、対応策を実行した結果、1学期に比べて学力の向上がみられた。次年度は生徒実態の分析を図り、課題意識と具体的手立てを教員全体で共有し取り組むことを目指す。手帳の活用を継続し、効率のよい学習・部活動を目指す。	目標に向かうための生活習慣を確立させる。	・手帳を活用し生徒自身が生活スタイルを作り上げる・健康管理に努め遅刻欠席0を目指す・学習環境の整備・ノーチャイムの活用・読書時間の活用・アンケートに基づく資料の充実	
	学習習慣の定着を図り、基礎学力の向上と発展的学習の充実を目指す。	・手帳を活用し学習時間を増やし、内容の充実を図る・自習室、学習スペースの活用・スタディサブリの活用・英単語テストの充実・模試の復習会の充実・授業研究の充実	
	生徒の自己理解を進めて、進路目標をもたせる。	・キャリア教育講演会等の進路行事の活用・「進路のびき」の活用・校内生徒会活動等に積極的に参加・校外での活動に積極的に参加・個人面談等の充実・進路情報の充実	
	学習と部活動の両立を図れる指導をめざす。	・学習指導と部活動指導の連携・部活動の奨励とその効果的な指導の工夫・部活動の効率化・時間の遵守	
	地域への愛着を持たせるとともに、豊かな人間性の育成に努める。	・奈良TIMEの充実・地域での活動に積極的に参加・かざぐるま実習、幼稚園実習の充実・人権意識の向上	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	
第1学年	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高めさせる。	服装や頭髮など身だしなみを整えさせる。また、遅刻・欠席や課題の提出遅れの防止に努める。整理・整頓・清掃を充実し、学習環境を整えさせる。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○50回未満:A ○70回未満:B ○90回未満:C ○90回以上:D	B	携帯電話のマナーや、頭髮違反、制服の着こなし特に女子生徒のボタンを閉めることについて、日々指導しているが徹底不足である。遅刻については、各クラスでの指導が行われた結果、少ない状況である。				
	基礎学力を身に付け、家庭学習の充実を図る。部活動や学校行事に主体的に取り組ませる。	文化系・体育系・部局を合わせ部活動への加入率70%以上の維持を目標とし、学習活動と部活動の両立を目指す生徒を育てる。	部活動の加入率 ○70%以上:A ○65%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	A	部活動への参加は勿論のこと、部活動と学習との両立についてもしっかり取り組み、成果を上げている生徒もいる。				
		学力が向上していると思っている生徒が	○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D		参考となるデータがなく、評価できない。				
		授業を大切に、基礎学力を身に付け、模試の復習会や宿題・予習などを含めた授業時間外学習の習慣を身に付けさせる。	模試の復習会に参加した生徒の割合が ○15%以上:A ○10%以上15%未満:B ○5以上10未満:C ○5%未満:D	B	英語46名、数学61名、国語30名が参加した。参加した生徒の割合は、3教科平均して14.2%となった。中には3教科とも参加した生徒が27名おり積極的に取り組んだ。				
	自らのキャリアプランについて、しっかり考える姿勢を育む。	自らの興味・関心に基づき、適性を探り、自己理解を深め、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	総合学習やLHRの時間を活用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	B	類型選択に向けて各クラスでHRや個人面談を行い、具体的な進路計画を立てている。				
学年だよりを配布するなどして啓発に努め、進路目標やその他の目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。		「学年だより」を ○各学期に1回以上配布:A ○年間に3回以上配布:B ○年間に2回以上配布:C ○それ以下:D	B	1学期末に発行をし、2学期からの心構えを中心に示したが、2学期は次年度2年生への心構えを類型選択の内容と関連づけて示していきたい。					
第2学年	規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	保護者や関係機関との連携を図り、生活の乱れや心身の不調に注意し、遅刻・欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。特に不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○30回未満:A ○50回未満:B ○70回未満:C ○70回以上:D	B	9月29日現在で2年の遅刻総数は141回でクラス平均にすると17.625回となる。年間このペースで遅刻すると約40回でBランクになる。				
	学力の向上を目指し、充実した学校生活を送らせる。	部活動の加入率70%以上の維持を目標とし、卒業まで学業と部活動の両立を図れるように支援する。	部活動の加入率 ○70%以上:A ○65%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	A	生徒アンケートの結果から体育系部活加入者152名、文化系部活加入者78名調査人数308名で部活動加入率は74.6%となる。				
		基礎学力の充実を図るために、授業外学習の習慣を身に付けさせ、学力向上に向けて「わかる」授業や模試の復習会を展開する。	模試の復習会に参加した生徒の割合が ○15%以上:A ○10%以上15%未満:B ○5以上10未満:C ○5%未満:D	A	進研模試7月の復習会(英語・数学)への平均参加人数は約60名であった。受験者数309名に対し生徒参加率は19.4%である。				
			平日の平均授業外学習時間が ○3時間以上:A ○2時間以上:B ○1時間以上:C ○1時間未満:D	D	生徒アンケートより平日の自宅学習平均時間が30.4分で1年生のときより減少している。				
	自分の将来を見つめ、目標達成のために努力する姿勢を育てる。	自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。	総合学習やLHRの時間を活用し、第2学年の間に進路目標が定まった者が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D		アンケート実施していないため				
学年だよりを配布するなどして啓発に努め、進路目標や部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。		「学年だより」を ○各学期に1回以上配布:A ○年間に3回以上配布:B ○年間に2回以上配布:C ○それ以下:D	D	今のところ、学年だよりを発行できていない。					

平成28年度 学校評価計画表(その2)

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第3学年	個々の生徒が目標に向かうための生活習慣を確立させる。	保護者や関係機関との連携を図り、特に受験時期に起こりがちな生活の乱れや心身の不調に注意し、授業の重要性を伝え啓発し、遅刻・欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。不注意や寝坊を原因とする遅刻の減少を目標に指導する。	遅刻の各クラス別年間総数の平均 ○50回未満:A ○70回未満:B ○90回未満:C ○90回以上:D	A	1学期の遅刻総数は67回で、クラス平均8.4回となった。ただ、欠席は214日となりクラス平均26.8日となった。ただ、2学期に入り9月の欠席・遅刻は159日、56回と受験を目前に控え増加していった。				
	学力を向上させ、進路希望に応じた学習を深めさせて、充実した学校生活を送らせる。	基礎学力の充実を図るとともに、授業を進路に結びつけ、学力の応用も視野に入れるために授業改善を行い、授業外学習を習慣化させる。	学力が向上していると感じている生徒が ○70%以上:A ○60%以上:B ○50%以上:C ○50%未満:D	B	1学期のアンケートで、学力が向上したと考えている生徒は68.87%となった。今後受験本番を迎えさらなる向上を期待したい。また、学校の満足度は90.5%であった。				
	自己の将来を見つめ、目標達成のため、自ら努力する力を養う。	進路目標、部活動目標など、目的意識を持たせ、自己実現に向けて地道に努力させる。生徒、保護者に進路について興味・関心を持ち、理解を深めてもらうため「学年だより」などを作成し、進路情報の発信に努める。	平日の平均授業時間外学習が ○3時間以上:A ○2時間以上:B ○1時間以上:C ○1時間未満:D	B	生徒一人当たりで換算すると、自宅学習が1時間、自宅外学習が1.4時間となり一人当たり2.4時間となる。				
総務	学校運営が円滑に行えるように対処する。各種出版物、学校説明会、授業公開等を充実したものにする。	各分掌と連携し、儀式や全校朝礼等を充実したものにする。 学校経営計画、学校案内リーフレットなどを作成する。学校説明会を円滑に進め、中学生・保護者に本校の方針等を理解してもらう。	儀式等に関するホームページ掲載の質・量が昨年より ○大幅増:A ○増:B ○同程度:C ○減:D	C	儀式に関するホームページを、随時、掲載することができた。				
	PTA、桜葉会、桜木会活動を円滑に進める。	PTA理事会、各部会の取組を円滑に進める。ホームページやPTA広報誌を通じて情報発信をする。また、保護者連絡網を活用する。	PTA等の活動に関するホームページ掲載の質・量が昨年より ○大幅増:A ○増:B ○同程度:C ○減:D	C	広報誌「けんゆう」85号が発行された。				
	基礎学力の充実と努めると共に発展的な学習にも目を向けさせ、確かな学力の養成に努める。また、手帳を使って、限りある時間の有効活用を考え、学習習慣の定着を図る。	各人年に1度は自教科の授業と、他教科の授業の授業参観の機会を持つ。 手帳を活用し、計画的に学習に取り組む力を身に付けさせ、授業外学習の時間の充実を図る。	授業参観への参加率 ○90%以上:A ○80%以上:B ○60%以上:C ○60%未満:D	A	自教科の授業参観への参加率は、100%であった。11月に他教科の授業参観終了後、数値を確定させる。				
教務	個々の生徒が目指す進路目標に応じた教育課程を編成する。	次年度に向け、11月までに教育課程検討委員会・教科主任者会・学修推進委員会を効果的に開催する。 観点別評価や高大接続研究会、教育課程説明会等に、教務部員は各人年2回以上参加する。	開催回数 ○6回以上:A ○5回:B ○4回:C ○3回以下:D	B	新教育課程の編成など、教育課程検討委員会と学修推進委員会を合わせて5回実施した。				
	生徒の実態・成果を分析し、目標達成への手立てを探る	生徒アンケート・模試結果・受験結果などを結合させ、生徒の実態を数値的に把握できる資料を作成・提供し、生徒の目標達成に役立てる。	参加率 ○80%以上:A ○60%以上:B ○40%以上:C ○40%未満:D	C (人数) B (延べ数)	教務部員9名中4名が、延べ7回、高大接続研究会や教育課程説明会等に参加した。更に、研究会等に参加していく。				
	開発研究	年間教職員に情報提供を何回できたか ○学期に2回以上:A ○学期に1回:B ○年間2回:C ○それ以下:D			現在、10月段階で、3回職員に情報提供し、1回の研修を行った。				

平成28年度 学校評価計画表(その3)

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)			
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導	基本的な生活習慣の確立を図る。	通学路マナー、挨拶の励行推進を生活委員活動として実施する。 日々の登校指導を充実させ、服装・頭髪の点検や挨拶の奨励をする。	挨拶運動を年間 ○10日以上:A ○5日以上7日未満:C ○7日以上10日未満:B ○5日未満:D	B	計画通りに進んでいる。 服装については、男子は特に問題はないが、女子の女子のブラウスの第1ボタン閉めていない生徒がいる。				
		校外指導を充実させ、電車内、ターミナル指導を実施する。 規範意識の向上を目指す。	校外指導を年に ○6回以上:A ○4回:C ○5回:B ○3回以下:D	B	現在、2回実施。 規範意識は向上している				
		不注意、寝坊等での遅刻回数の減少を図る。	年間延べ数 ○50回以上減:A ○30回以上40回未満:C ○40回以上50回未満減:B ○前年と同程度:D	C	9月現在12回減 ぎりぎりに来る生徒は数名となった。				
	教職員共通理解の下に生徒指導を行う。	生徒指導内規における、特別指導数を減少する。	前年比 ○20%以上減:A ○5%以上減:C ○10%以上減:B ○同程度:D	A	9月現在、11件から7件に減				
	家庭や地域、関係諸機関との連携を強化する。	休業中の生徒心得や保護者宛文書を通して啓発する。また、PTA生活部の活動を通して連携を図る。 生徒心得及び保護者宛文書発行する。	生徒心得及び保護者宛文書の発行を年に ○6回以上:A ○4回:C ○5回:B ○3回以下:D	D	1学期に1回				
教育支援(相談)	不安や悩みを抱える生徒に対し、適切な支援を行う	報告、連絡、相談を基本に生徒の不安や悩みの状態を的確に把握し、適切な支援を行うためにスクールカウンセラーや外部支援機関との連携を密にする。	不安や悩みを抱える生徒の欠席日数が昨年度から ○70%未満:A ○90%未満:C ○80%未満:B ○100%未満:C	D	36日減少した。				
	多様な生徒に対して、心身の安定と自己実現を図る支援を行う。	教育相談及び特別支援にかかわる体制について、「チェックシート」を活用して生徒の実態把握に努めるとともに、スクールカウンセラーと学年・担任・関係部署等との連携をとる。	生徒アンケートにおいて、相談体制についての満足度が、「満足している」「だいたい満足している」をあわせて、 ○80%以上:A ○60%以上:C ○70%以上:B ○60%未満:D		2学期末にアンケートを予定している。				
進路指導	生徒個々が進路希望の実現を図れるよう学力向上に努める。	生徒一人一人を大切に、その可能性を伸ばすために基礎学力の充実に努める。また、校内でさまざまな講習(校内進学講座、模試の復習会、スタディサブリの活用等)を企画し、生徒のニーズに応える。	生徒アンケートにおいて、進学講座を受講して効果があった ○80%以上:A ○60%以上:C ○70%以上:B ○60%以下:D		進学講座、模試の復習会等実施しているが、そのことに関する生徒アンケートの機会はまだない。				
			生徒アンケートにおいて、模試復習会に参加して効果があった ○80%以上:A ○60%以上:C ○70%以上:B ○60%未満:D		進学講座、模試の復習会等実施しているが、そのことに関する生徒アンケートの機会はまだない。				
			生徒アンケートにおいて、スタディサブリを活用して効果を実感した ○80%以上:A ○60%以上:C ○70%以上:B ○60%未満:D		9月中旬に英語以外の活用状況のアンケートを実施したが、推計で10%程度の活用に残っている。				
	進路情報を充実し、利用しやすい環境を整備する。	キャリア教育の推進計画に基づき、他の分掌とともにL.H.R.やGSの企画、講演会の開催を通じて、生徒(保護者)の意識啓発に努める。	L.H.R.、GSの企画と講演会開催を合わせた回数が ○8回以上:A ○4回以上:C ○6回以上:B ○4回未満:D		9月末日時点で、企画は5回、講演会は3回である。				
		最新の進路情報の取得と生徒への適切な広報を目指し、進路指導部員のみならず関係教員に校外での研究会や説明会への参加を促す。	校外での研究会や説明会への参加回数が、 ○参加40回以上:A ○参加20回以上:C ○参加30回以上:B ○参加20回未満:D		9月末日時点で、研究会や入試説明会に延べ20回以上は参加できている。報告も挙げることができている。				
	「進路のてびき」を全生徒に配布し、進路HR指導案の資料として使用するなど、有効活用を図る。	生徒アンケートにおいて、「進路のてびき」が役に立った ○80%以上:A ○60%以上:C ○70%以上:B ○60%未満:D		生徒アンケートの機会がきていない。					
人権教育	人権を尊重し、人権侵害や差別を見抜き、それらを解決する意志と実践力を育てる。	人権HR、ならびに、人権講演会の充実を図るとともに、「自分には何ができるか」を考えさせる取組を展開する。	3年最後のアンケートにおける、「いじめ」や「差別」に気づいたとき、どうしますかに対して、「見て見ぬふりする」が ○5%未満:A ○25%未満:C ○15%未満:B ○25%以上:D		3年アンケートは未実施である				
	自己理解を進めることにより、他者のことも理解する資質を育て、お互いを認め合う集団づくりを行う。	グループワークを取り入れることにより、生徒が仲間との交流を通じて自分自身について考えながら仲間意識を高め、共に成長すること促す。	生徒アンケートにおいて、「なかまづくり」が ○“よくできた”が80%以上:A ○“よくできた”“まあまあできた”とで80%以上:B ○“よくできた”“まあまあできた”とで70%以上:C ○“よくできた”“まあまあできた”とで70%未満:D	B	生徒アンケートにおいて、「なかまづくり」が “よくできた”が55.0% “まあまあできた”が40.5%で、“よくできた”と“まあまあできた”とで95.5%であった				
	「かざぐるま実習」の充実を図る。	「かざぐるま実習」の実施方法を見直し、利用者の方の思いを知るための交流の時間を設けることにより、障害者理解を深める。	生徒アンケートにおいて、 ○“大変よかった”が80%以上:A ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで80%以上:B ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで70%以上:C ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで70%未満:D	B	生徒アンケートにおいて、 “大変よかった”が37.1% “まあまあよかった”が57.7%で、“大変よかった”と“まあまあよかった”とで94.8%であった				

平成28年度 学校評価計画表(その4)

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策	評価指標	中間期(9月)		年度末(3月)				
				自己評価	進捗状況	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
人権教育 教育支援 (奨学金)	奨学金指導を通して生徒の学習権の確保と進路の保障を目指す。	各種奨学金の情報を的確に伝え、活用をよびかけるとともに、応募手続きを指導する。特に希望者が増加している日本学生支援機構大学等予約奨学金については、人権教育部全員で対応にあたる。	生徒アンケートにおいて、 ○“大変よかった”が 80%以上:A ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで 80%以上:B ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで70%以上:C ○“大変よかった”“まあまあよかった”とで70%未満:D	B	生徒アンケートにおいて、“大変よかった”が 54.7% “まあまあよかった”が 43.1%で、“大変よかった”と“まあまあよかった”とで 97.8%であった					
保健体育	生徒の体力の向上を図る。	体育系クラブ入部率65%以上とする。	体育系クラブ入部率が ○65%以上:A ○50%以上:C ○55%以上:B ○45%未満:D	C	9月30日現在、50%である。男子は68%と高いが、女子は28%と低い。					
		スポーツテストの結果を活用し、体力向上を図る。偏差値(Tスコア)3ポイント向上を目指す。	Tスコアのポイント向上が ○3ポイント以上:A ○-2ポイント以上:C ○0ポイント以上:B ○-2ポイント未満:D	C	昨年度と比較し 2年生男子 -2.2ポイント 3年生男子 -3.1ポイント 2年生女子 +0.5ポイント 3年生女子 -2.2ポイント 平均-1.75ポイント					
	健康管理の意識を高める。	再検査、精密検査の受診率の向上を目指す。	検診後の再診、治療率が ○70%以上:A ○40%以上:C ○55%以上:B ○40%未満:D	C	尿、歯、視力、眼科、内科D 結核、心電図C 治療継続者が多く現段階では低い結果となっている。					
	食育の意識を高める。	朝食の摂取率の向上を目指す。	毎日の朝食摂取率が ○90%以上:A ○70%以上:C ○80%以上:B ○70%未満:D	B	毎日食べる 81% 時々欠かす 16% 食べない 3% 男女間での差はないが1、2年生の男子の毎日食べる割合が8割を切っている。					
環境整備	充実した学校生活を送れるよう、安全で清潔な学習の場を作る。	日々の清掃・美化活動を継続し、より徹底する。	生徒アンケートにおいて、充実した清掃・美化活動を実施できたか、 ○60%以上:A ○40%以上:C ○50%以上:B ○40%未満:D		アンケートは未実施。学校行事の後や長期休業中の美化活動に課題が残る。					
		通学路清掃の該当区域を広げることによって、地域に愛着を持ち、つながりを意識した活動に発展させる。	美化委員に加え、有志の参加数が前年比 ○10%以上の増:A ○同程度:C ○5%以上の増:B ○減:D	C	有志の参加者の大部分がクラブ員であり、大会前ということもあって、例年一学期の参加者は二学期より少なくなる。二学期に期待したい。					
特別活動	生徒会活動の更なる活性化をはかる。	生徒会本部役員の生徒が主体的に考えて行動し、生徒会組織のリーダーシップがとることができるよう指導する。また、各種委員会の委員長・副委員長が、それぞれの分野で自発的かつ積極的に活動するように指導する。	昨年に比べて ○非常に活発:A ○昨年と同程度:C ○ある程度活発:B ○昨年より不活発:D	C	生徒会本部役員は、多くの面でいろいろと学校行事に関わることができるようになってきたが、まだまだ教師主導の面が多々ある。各種委員会の委員長・副委員長については、活動が活発にできていない面が否めない。					
	文化祭の内容を充実させる。	生徒会と文化祭実行委員が主体となって、文化祭の企画・運営に取り組み、他の生徒を引っ張っていくよう指導する。また、各クラス・クラブ・団体の発表がより活発となるよう、サポートする。	事後の文化祭アンケートで、「よかった」「満足」の回答が ○80%以上:A ○40%以上60%未満:C ○60%以上80%未満:B ○40%未満:D	A	文化祭においては、生徒会本部役員が自ら企画・立案した内容が、概ね好評であった。全体として生徒のからの評価もよかったが、職員目線で見ると、細かい部分での改善点や問題点は何点かみられた。					
教育情報	学校からの情報発信に努める。	ホームページを定期的に更新し、最新情報を発信する。	ホームページの更新 ○年間115回以上:A ○年間93回以上:C ○年間104回以上:B ○年間92回以下:D		9月末現在で、新たに作成されたか、1回以上更新されたページは58ページです。					
図書資料	生徒の読書活動を推進する	朝の読書旬間や読書感想文コンクール応募など読書指導を充実させる。計画的な広報活動を実施する。	貸出冊数年 ○1400冊以上:A ○1200冊以上:C ○1300冊以上:B ○1100冊以上:D		貸出冊数は、9月末日現在で806冊である。					
			生徒アンケートにおいて、朝の読書旬間に満足したの回答が ○80%以上:A ○40%以上60%未満:C ○60%以上80%未満:B ○40%未満:D		朝の読書旬間(5/26~6/15)実施。図書館便り(4.5,6,7月)発行。					
事務	学校運営経費及び、光熱水費の適切な執行管理。また、円滑な学校運営を行うための教育環境の整備。	厳しい光熱水費の予算の中で、より一層の光熱水費の削減、節電・節水の慣行等、省エネについての啓発に努め、適切な執行管理を行う。また、建物管理については安全点検と予防保全の徹底をし、必要な予算を要求していく。	光熱水費の削減が ○10%出来れば:A ○昨年どおり:C ○光熱水費の削減が出来れば:B ○出来なければ:D	B	光熱水費の使用量は、電気が昨年の99%、水道が94.7%と、若干ではあるが減少している。これからも、より一層光熱水費の削減のための啓発を行っていきたい。					
	来客者や電話での適切な接遇及び証明書発行等の迅速な対応、また、的確な文書・物品の管理。	来客や電話の対応については、親切丁寧及び迅速に心をかける。また、事務室内の環境を整備し、事務処理や文書管理において、的確な対応をめざす。	来客や電話の対応、また日頃の事務処理について、 ○大変よしと言う評価が得られたら:A ○苦情が来なければ:C ○良い評価なら:B ○苦情が出たら:D	B	来客や電話の対応、証明書の発行、授業料・学校諸経費の滞納者への対応、就学支援金の保護者への対応等の確に出来ている。					